

種智院大學 同窓會報

創刊号

昭和62年10月1日

京都市南区壬生通八条下る東寺町545番地
種智院大学同窓会事務局

同窓会報創刊に寄せて

種智院大学同窓会々長 森 諦 圓



錦秋のみぎり、同窓生各位には益々ご清祥のことと、お慶び申し上げます。

さて、このたび、同窓会役員の皆様方のご支援を賜わり、同窓会の一層の活性化が計られることになり、その第一歩として、同窓会事務局の諸君の尽力もあり、『同窓会報』が創刊されることになりました。そして、このたびの総会にむけて、本格的な始動がここに、おこったのであります。

思いおこせば、雲照律師による本学開設百周年記念事業の一環として、種智院大学同窓会の整備・充実をはかることになったのであります。同窓会創立記念式のために、仁和寺の御室会館に集まった同窓生諸氏との歓談、本学の将来にむけての皆様方の熱い思いを、会長としてこの胸中に刻み込んだのであります。皆様方のご熱意を体する同窓会として、今後益々の発展を思わずにはおられませんでした。

しかし、その後諸般の事情が相重なり、同窓会の運営は遺憾ながら事実上、停滞のやむなきに至りました。しかも、この間、私も本学々長の職を離れ、現在は麻生文雄氏が学長に就任せられ、本学も新しい情勢を迎えるに至っております。

また、一方において、文部省から本学の改善勧告の問題がありました。私の学長在職中からの重要な課題でありましただけに、私の

心痛とするところであります。しかし、本学教職員諸氏のご努力により、本学発展のために、本学の将来像を抜本的に見直していこうとする気運が興ってまいりました。

こうした大学内・外からおこった本学の将来を考える灯は、困難な問題も多々ありますが、本学の建学の精神を生かし、本学に寄せる期待の大きさを思うとき、それに如何にして応えるべきかを考えるときにきたと言えましょう。

しかし、このときに、私は年来の持病のため病床の身にあります。この如何ともしがたい心中をご推察下さい。しかしながら、このような中にあっても、同窓生各位の熱き思いが伝わってまいります。とくに香川県では高吉清順師を中心に、種智院大学同窓会香川県支部が結成せられ、活発な活動が伝えられております。全国に広がる同窓生の皆様、香川県支部の結成にひきつづいて、全国各地で支部結成の気運を盛り上げて下さい。そして、本学同窓生としての活躍を相互に伝えあい、本学発展の礎を、あらゆる場で確かめていただくことを、強く希望するものであります。

現在、病床にて、会長として十分なことができず、大変遺憾であります。同窓生の皆様方の熱き、強き願いを体して、一日も早く回復し、同窓会発展の道筋をつけるべき覚悟でございます。

今後とも、種智院大学同窓会の絶大なるご支援を心からお願い申しあげる次第であります。

同窓会報創刊を祝う

種智院大学々長 麻 生 文 雄



同窓会報創刊おめでと
うございます。

私は、今年1月本学の
学長に就任致しましたが、
就任早々、色々な問
題が山積されているのに
驚かされました。

その中で、最も重要で急務とされているの
が、大学の拡充というテーマです。

我が種智院大学は、昭和24年新制大学とし
て発足以来、お大師さまの綜芸種智院の精神
を新制大学という形態にうまくとり入れ、全
国一の「ミニ大学」というトレード・マーク
をもって、とくに宗内に於いて幾多のすぐれ
た人材を育成してまいりました。

しかし、教育的にすぐれ、また、世間的に
は、ミニ大学として注目されることはあつて
も、大学には「大学設置基準」というものが
あり、文部省からは「校地・校舎の狭隘につ
いて改善要求」が何度も勧告されてきており
猶予を許されぬ現状にあります。

理事会や教授会では、私が学長に就任する
前からこの問題については十分討議されてあ
り、その結果校地については、「大学設置基
準」では約1万6千平方メートルであるのに

対し、本学の校地は実に16分の1の千平方メ
ートルであり、早急の解決は困難であるとの
結論を得ました。つぎに校舎については、福
祉学コースの新設等による学生の増加により
「設置基準」による勧告以前に、現実問題と
して教室・設備の不足は深刻であり、一刻も
早い解決が望まれております。

校地と校舎というものは切りはなしては語
れないもので、校地問題についても、私は、
私なりのビジョンを持っておりますが、今こ
こで語るのは不適切であり、さし控えさせ
て頂きます。しかし、全体のビジョンに鑑みつ
つ校舎拡充に着手致し度く、同窓生の皆様
のご理解の程を求めるものです。

同窓会報創刊のお祝いのごあいさつにとし
ては、あまりに現実的なことを申し上げすぎ
たかとは存じますが、現在本学で学ぶ学生一
人一人が、より良い環境のもと、他の大学に
負けない状態で一生に一番大切な時期を送れ
るよう配慮し、今まで以上に優秀な人材を宗
内外に送り出すことが私のつとめであると認
識し、あえてここに提言致した次第です。

同窓会報の創刊が、大学の発展の再スター
トであることを念じつつ、お祝いのことばと
させていただきます。

***** 森 諦圓会長の近況 *****

会長の森先生は、巻頭のご挨拶にありましたよ
うに、持病のため、病床の身にあります。先般、
療養中の先生をお尋ねしましたが、先生は、こ
の外お元気で、学長在職中の思い出などを語っ
て下さりました。持病の方も順調に回復されてい
るようにお見うけしました。先生は、同窓会の発展
のために、会員の皆様方のご支援・ご協力をいた
だくことを切に望まれて、巻頭の一文をいただ
いた次第です。



昭和10年ごろの校舎

種智院大学同窓会会則

第1章 総 則

第1条 (名称・本部・支部)

本会は、種智院大学同窓会と称し、本部を種智院大学内に置き、各地に支部を置くことができる。

第2条 (目的)

本会は会員相互の親睦をはかり、母校との関係を密接にし、宗祖の教風を宣揚し、母校の発展に寄与するとともに、社会教化の振興をはかることを目的とする。

第3条 (事業)

本会は前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

1. 各種誌紙の編集および発行。
2. 総会・講演会・記念行事等の開催。
3. その他、本会の目的達成に必要な事業。

第2章 会 員

第4条 (会 員)

本会の会員は、母校（種智院大学およびその前身校である京都専門学校、真言宗京都大学）並びに東寺中学に関係した者をもって組織する。会員は次のとおりとする。

1. 普通会员
母校に在籍していた者（現在在籍者も含む）。
2. 賛助会員
A. 母校の教職員として在籍していた者（現在在籍者も含む）。
B. 本会の主旨に賛同し、入会申込が常任幹事会によって認められた。

3. 特別会員
母校の運営に関係ある職務（各総大本山の山主・重役・学園理事・評議員等）にある者および常任幹事会によって特に推戴した者。

4. 名誉会員
母校ならびに本会对し、その事業の振興・発展に多大な貢献のあった者、または多額の金品等寄付のあった者を、総会の議を経て名誉会員として推戴することができる。

第5条 (会員の義務)

本会の会員は、第13条の定めるところによる会費を納入しなければならない。

第3章 役 員

第6条 (役員構成)

本会に次の役員を置く。

- 会 長 1名
本会を代表し、会務を統括する。
- 副 会 長 2名以上
会長を補佐し、会長事故あるときはその職務を代行する。
- 幹 事 若干名
本会の運営業務を協議し、実務を分担する。
- 常任幹事 若干名
本会の日常の運営業務を協議し、実務を担当する。
- 支 部 長 若干名
支部の業務を総括し、本部の活動を援助する。
- 監 査 2名
本会の運営および会計業務を監査、報告する。

第7条 (その他の役員)

本会は、名誉会長・顧問参与を総会において推戴することができる。

第8条 (選出方法)

会長・副会長・幹事・監査は、総会において選出する。常任幹事は幹事の中より会長がこれを依頼する。支部長は支部より選出された者を本部の会長がこれを承認する。

第9条 (任期・役員)の補充)

役員)の任期は4年とし、4年目の3月31日をもって任期満了とする。但し後任者が決定するまで、なお引き続きその職務を行わなければならない。

2. 役員に欠員を生じ、運営に支障のあるときは、常任幹事会において後任を決定する。後任者の任期はその残任期間とする。

第4章 会 議

第10条 (総 会)

総会は次のとおりとする。

1. 定期総会は、原則として年1回会長がこれを召集、次の議事を行う。
 - (イ) 事業報告および行事計画
 - (ロ) 会計報告および監査報告
 - (ハ) 必要のあるときは役員選出
 - (ニ) その他必要な事項
2. 臨時総会は、会長の必要と認めるとき、会長がこれを召集する。
3. 総会の議決は、出席者の過半数をもってこれを決定する。

第11条 (常任幹事会)

常任幹事会は、会長・副会長・常任幹事をもって構成し、会長がこれを召集し、総会の議決事項を執行するほか、種々の企画・運営に当たる。

- 2. 常任幹事会には、必要に応じその他の役員も出席することができる。
- 3. 常任幹事会は、構成員の2分の1以上の出席(委任状含む)をもって成立し、その議決は、構成員およびその他の役員も含めた出席者の過半数の承認を必要とする。

第5章 会 計

第12条 (会 計)

本会の会計は、会費・寄付金およびその他の収入をもって充当する。

- 2. 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月末日に終る。

第13条 (会 費)

会費は次のとおりとする。

- 1. 普通会員・賛助会員・特別会員とも1ヶ年2,000円とする。但し、一時金として20,000円以上納入した者は終身会員とする。
- 2. 名誉会員等本会において推戴した会員は終身会員とすることができる。

第6章 そ の 他

第14条 (会則の変更)

本会則の変更は、総会において出席者の過半数の同意を必要とする。

第15条 (従前の団体)

従来の東寺学友会の団体は、其の主旨を体し、本会がその事務、会計を引き継ぐものとする。

第16条 (事務局)

本会の事務を円滑に進めるため、本部に事務局を置く。

付則1. この会則は昭和57年7月12日より実施する。

種智院大学同窓会 支部設置規程

第1条 種智院大学同窓会則第1条に基づき、この支部設置規程を設ける。

第2条 支部は本部の活動を援助することを目的とし、併せてその支部会員相互の親睦をはかるものとする。

第3条 支部の設立は、本部の承認を必要とする。

- 2. 支部の設立は次の要件を満たすことが望ましい。

- (1) 地 区 都道府県または在籍年次単位を原則とする。但し地区・在籍年次等の事情により併合・分割することをさまたげない。
- (2) 会員数 10名以上を原則とする。但し地区・在籍年次等の事情により併合・分割することをさまたげない。
- (3) 役 員 支部長・その他の役員を置く。

第4条 支部を設置したときは、次の事項をただちに本部に報告するものとする。

名称 範囲 事務所 会員名簿
その他参考となる事項

第5条 支部の会員は本部の会員であることを前提とする。

第6条 支部はその支部の規約を作ることができる。

第7条 支部長は支部の業務を総括し、本部の常任幹事会に出席することができる。

第8条 この規定は昭和57年7月12日より実施する。

種智院大学同窓会役員一覧

(敬称略・五十音順)

- 会 長 森 諦圓
- 副 会 長 池田瑩輝 井上紀生 蠣田弘教
城光寺教進 手嶋千俊
- 常任幹事 岩城秀雄 上原雅明 川崎龍性
加門得勇 佐藤秀明 篠畑俊成
菅 智潤 田畑祐弘 土屋博秀
鳥越正道 圓 覚亮 山地善真
- 幹 事 阿部本宣 赤崎定道 石堂恵俊
岩橋政寛 井上亮淳 井出宝泉
池田光輝 岩城秀親 入江宥憲
大林教善 小倉秀圓 大塚聖純
亀谷和雄 蠣田有全 北原哲雄
北村太道 小林隆仁 小西光延
佐々木成海 嶋 裕海 捨田利義猛
鈴木宏教 杉崎圓覚 村主恵快
高井隆秀 多田隆信 玉久圭澄
民岡哲雄 田居龍空 竹中弘明
高藤圓應 田中治憲 都筑大乘
遠山本良 鳥越英徳 夏目祐伸
中村涼應 幡山寛哉 富永龍心
英 真恵 平見純雄 藤田俊教
福島仁良 松尾初子 松田亮如
松本安正 松本隆寛 松本龍雄
三浦俊良 水谷修夫 水谷素彦
宮崎幹大 村岸定光 森 恭圓
安井玄純 鷺尾隆輝
- 監 査 市橋真明 吉田裕信

(昭和62年10月現在)

同窓会経過報告

種智院大学百周年記念事業より端を発し、57年7月12日、仁和寺「御室会館」に於いて種智院大学同窓会設立総会を開催した。協議事項として、①会則案並びに支部設置規程案確認②役員選出③総会運営④懇親会の進行⑤その他必要な事項等を審議し、仁和寺執行長の石井玄妙僧正より「仁和寺の歴史と宝物」と題し記念講演、記念撮影、宝物館の特別拝観、懇親会へと参加一同有意義なる一日を過ごした。

58年6月16日午後4時、新・都ホテルにて17名の参加のもと第一回常任幹事会（以降役員会と称す）を開催、①会則の確認②役員名簿の作成など意見が出た。

59年4月5日、新・都ホテルに於いて10名の参加を得て第2回役員会を開催。本年度総会実施について等協議を行った。

59年6月6日午後1時より仁和寺「御室会館」に於いて第3回役員会を開催、第二回総会の進行等協議し2時より総会に移った。開会の辞に続き物故者慰霊法要並びに宗祖大師御遠忌（御法楽）、会長挨拶、議長選出、決算報告、会則一部改正、その他必要事項を審議し、映画「弘法大師の生涯」鑑賞、懇親会に移り一同友好を深めた。

61年11月25日、第4回役員会を本学にて実施。各種の報告、その他の協議を行った。

62年7月10日、本学に於いて第5回役員会を開催し13名出席。大学事務局の通常事務の繁雑を考えるに京都の経営本山に有能なる本学卒業生が居られるので協力を願ひてはとの意見が出て、慢性化した事務処理を活発化せしめんが為に、各山重役に御願ひすることで了承された。

以後事務処理も終え、62年7月16日、本学に於いて第一回事務局会議を開催。麻生文雄学長、佐藤久光学生部長、蠣田有全氏（仁和寺）、宇喜多隆教氏（大覚寺）、孤溪正信氏（泉涌寺）、上原雅明氏（随心院）、壁瀬宥雅氏（醍醐寺）、松木勝彦氏（東寺）、嶋裕海事務長、田中治憲総務主任、岩城秀親教務主任、都筑大乘会計主任等出席。今後の事務局の持ち方、活動方針、会員拡大、名簿の作成、会報の発行、次回総会へ向けこの取り組み等協議した。

62年7月22日午後1時、京都国際ホテルに於いて後援会・同窓会合同役員会を開催。大学の現況

・現状説明、質疑応答等活発な意見が出て大学の維持、経営、発展に全幅の賛意を表すことで一丸となって協力することを確認し了承した。その後第6回役員会を実施、前回決議した事務局員に教員より中川（事務局長）、宮城両先生に依頼し了承された。

62年7月30日、第2回事務局会議

62年8月22日、第3回事務局会議

62年9月3日、第4回事務局会議

62年9月17日、第5回事務局会議

62年9月29日、第6回事務局会議

等実施。現在までの事務経過は全力で総会に向けて取り組むこと、卒業生名簿の整理作製、「種智院大学同窓会報」の発行等、一步一步ではあるが充実しつつある現状である。

同窓会会費納入の

お願いについて！

- ①会費納入について、会則第1章総則第2条（目的）、第2章会員第4条（会員）のとおり卒業生・本学に関係をもったもの全員が会員であることを原則に終身会費2万円の納入をお願いいたします。
- ②現在年会費納入者（普通会员で2万円迄の途中納入者）は、出来るだけ終身会員（会費2万円）となつていただきますようお願いいたします。
- ③現在会費納入が完了（終身会員2万円以上）の会員は同期生等への納入の呼び掛けをお願いいたします。
- ④同封の郵便振込用紙（払込通知票）を利用いただきますと振込料金がありません。必要事項をご記入（裏の通信欄等も含む）下さいませようお願いいたします。
- ⑤ご入金等にお気付きの点がございましたらご一報下さいます様お願いいたします。

◎題字について

題字は、弘法大師の真蹟集である『空海大字林』より集字いたしました。

洛南の思い出

— 高吉清順 —

同窓会々報「創刊号」発刊を祝し、事務局並びに関係者各位に対し、衷心より敬意を表します。

『大師 古え 叙慮かしこみ
 菩提 曼荼羅 此所と定めて
 築きし法城 国家の鎮め
 歴史は燦たり 我等が学舎
 若き日 我等 力の限り
 称えん 京専 京専 』

ふと当時の校歌の一節が脳裡に浮かんで消えた。時に昭和17年春4月、戦雲いよいよ急を告げる頃、私は希望に燃えて東寺の東門を潜り、右に洗心寮（現在の洛南会館の処）をながめながら、参道の石畳を進み、御影堂ご宝前に額き、至心に御宝号を唱えて、京専入学の報告をした。本坊の玄関前に佇み、食堂・講堂・金堂・南大門と並んだ巨大な薨越しに、五重大塔の雄姿を仰いだ時、想いは遙か弘仁の昔に馳せ、祖師の御冥護のもと遊学の決意を固めたものである。

兎に角、私は洛南の風物が好きでした。京都駅南口を出て西へ、八条通りは狭かった。現在の新幹線のガード下に家並みが軒を連ねていた。大宮通りのガードを潜ると、やがて左へ折れて東寺北門に通ずる参道、左側に金勝院・宝菩提院・観智院と塔頭が並び、右側に運動場続いて校舎があった。瓦葺きの見事な校門がなつかしく思い出される。当時、教室は東寺中学の2階借りで、肩身の狭い思いであった。東寺の境内を通り抜けて南大門を出ると九条通り、九条大宮より東へ歩を進め、奈良電（現在の近鉄京都線）東寺駅附近より左へ折れて、稻荷御旅所あたり、古い街並みが八条通りまで続いていた。電車通りは勿論、街角、路地裏、店先、どこからでも五重大塔が見えた。洛南は正に大塔傘下の街である。

観智院裏の「陸寮」にて半年ばかり世話になった。師僧の元を離れて始めて自由の天地に飛び出した気持で、京の街を散策し、名所旧跡をたずね、夜遅くまで友と語り、東の間の青春時代を謳歌し

たのである。特に長谷宝秀先生の宗部、中川善教先生の唯識、土宜覚了先生の仏教史、吉祥真雄先生の曼荼羅図説、金田元成先生の声明、渡辺義貫先生の事相、高藤円応先生の国文等々、諸先生の面影は四十数年の歳月を越えて、今も尚、心中に残されている。学び舎は実に心の糧として永遠に銘記されるものであり、同窓会の意義もここにあると思われる。

やがて戦局の進展と共に、学園にも戦時色が濃厚となり、配属将校の叱咤を受けて、軍事訓練に明け暮れる時代を迎え、学徒動員令により徴兵延期の特典も廃され、学園から寄せ書の日丸を褌に出征する先輩を送って、八条通りを練り歩き、京都駅ホームで送別ストームを展開した光景が思い出される。昭和19年の新年度を迎えるや、既に学園の姿は消え、学問の府は蛻の殻、学生は軍需工場へ動員され、産業戦士の傍ら僅かに勉学に勤しむ状況となる。私達のクラス21名は大阪西成の佐野安ドックの寮に合宿して、タンカー造りの毎日が続いた。そして時局は就学期間の半年短縮を決定、私達は9月、激動の学生生活を終えた。既に軍務にある者、そして大半の者は入隊し、やがて終戦の幕はおり、戦死者2名を数えた。

戦後、京都を訪れる機会は多い。足は自然と洛南に向かい、五重の塔を仰ぎ見る。学園は趣きを一新し鉄筋の学舎が聳え、真言教学の拠点は脈々として息づいている。宗祖大師は天長5年、綜芸種智院創設に当たり「物の興廢は必ず人に由る。人の昇沈は定めて道に在り」と言われ、物の大事は人々の和合同志にあり、人は能く道を学ぶことが大事だと、末徒に示されている。歴史は燦たり、我等が学舎、種智院大学の栄光を願って、去る昭和60年10月、同窓会香川県支部が設立され、爾來母校との関係を密にし、宗祖の教風を宣揚して母校の発展に寄与するとともに、社会教化の振興をはかるべく会員一同努力している。

（同窓会香川県支部長 曼荼羅寺住職）

事務局より—

京都専門学校の校歌についてご
 存知の方は、是非ご一報下さい。

[大学だより]

学園祭のご案内

種智院大学学生自治会々長
堀 健 晃

秋も深まり、そろそろ木の葉も色づく季節となりました。諸先輩方におかれましては、ますます御健勝のことと存じ上げます。

さて、本年度も恒例の学園祭を学生自治会活動の一環として、11月20日・21日に行う予定でございます。今年の学園祭は「綜藝祭」と銘打ちまし

て、昨年度より執り行われている一般公開を行い、昨年よりも多くの人々との交流を深め、宗教大学の特徴を生かした、より活気のある学園祭を企画しております。

また今年の特徴としては今までの学園祭の上回る内容を予定しております。各部の展示、演奏会、コンサートをはじめ、模擬店や本学ならではのイベントを企画立案中であります。また、11月12日に体育祭も挙げる計画です。恐れながら、御多忙のこととは存じますが、当日には本学へ足をお運び下さいますよう、お願い申し上げます。

種智院大学学生歌

作詞 高藤 圓 應
作曲 山下 清 孟

長安の都はるかに
海こえて伝へきませる
遍照の光は今に 種智院大学
西東 時世かさねて
灌頂の水清らけく
み教への流れは尽きず わが学園
門開く綜芸種智院
文学の道庶民に及ぶ
ああ私学濫觴ここに わが学園
瑜伽の道ただ一筋に
理想の燈高くかかげて
若人ら未来を仰ぐ 種智院大学

Musical score for the student song. It consists of three staves of music with lyrics written below. The tempo is marked 'Andante 活気よく' and the dynamics include 'mf'.

昭和63年度 種智院大学入試日程

1 学部・学科・コース・募集人員

- (1) 仏教学部・仏教学科(仏教学・密教学・仏教福祉学) コース 40名
- (2) 編入生 若干名

2 試験日程

	出願期間	試験期日	合格発表	入学手続締切日
推薦	11/4(水)~11/25(水)	12/2(水) 9:30	12/5(土) 10:00	12/15(火) 必着
1次	1/12(火)~2/2(火)	2/9(火) 9:30	2/12(金) 10:00	2/22(月) 必着
2次	2/25(木)~3/17(木)	3/24(木) 9:30	3/26(土) 10:00	4/5(火) 必着

(事務所受付への出願は 平日は 9:00~17:00、土曜日は 9:00~12:00です)

〒601 京都市南区壬生通八条下る東寺町545番地
種智院大学 入試係 ☎ (075) 681-6513

昭和61年度密教研究補助金報告

1 玉蔵院賞（密教研究に優れた卒業論文）

山下英一

「十住心おける三世無障碍智戒の位置」

2 種智院大学研究奨励金支給者

本学における密教学、仏教学、仏教福祉学振興のための研究奨励金。

(イ)研究員の部

白木 利幸「遍路とその大師信仰」

松浦 妃女「金剛頂経の教理分の研究」

(ロ)専任教員の部

教授 仲尾 俊博

「普遍的仏教と孝論—二高僧の比較を通して—」

（『桐溪順忍和上追悼論文』探求社、昭和61年）

「最澄の二つの法華経観」

（木村武夫教授喜寿記念『日本仏教史の研究』）

永田文昌堂、昭和61年4月

教授 頼富 本宏

「文献資料に見る文殊菩薩の図像表現」

（雲井昭善博士古稀記念『仏教と異宗教』）

（昭和60年12月）

「新出の胎蔵系資料」

（『仏教芸術』165号、昭和61年3月）

教授 荻谷 定彦

「羅什訳『妙法蓮華経』の問題点（3）」

（『印度学仏教学研究』第34巻第2号、）

（昭和61年3月）

「長者窮子喩—『法華経』と『大法鼓経』」

（『興隆学林紀要』第1号、昭和61年10月）

助教授 中川 英尚

「『無量寿経』における菩薩観」

（『日本仏教学会年報』第51号、）

（昭和61年3月）

昭和61年度 種智院大学研究生

大学学部卒業生、およびそれと同等以上の能力があると認められた者で、本学において研究を行いたい者として次の三名が選考され、各々研究生期間を終了した。

篠原 義人 「天台真盛宗教学の研究」

濱野 君子 「弘法大師の密教的言語哲学」

平岡 宏一 「Vajrasikhara（金剛頂経釈タントラ）の研究」

昭和62年度 種智院大学特待生採用

本学の学生で人物・学業が優秀であって健康な者に授業料の全部又は一部を減免するもので、本年度は次の二名が採用された。

2年次 中塚 浩子

3年次 山口 仁美

事務局だより

本年7月の同窓会常任幹事会にて、事務局員が選出され、不肖私どもが、その任にあたることになりました。同窓生の皆様方には、何卒よろしくご指導を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

7月10日以来、今日まで7回の会議をもち、各自、積極的に取り組んでまいりました。その中で会員の皆様方に、同窓会の発展と会報の充実のため、ご協力のほどを得るために、次のようなお願いを申し上げます。

(1) 名簿作成のために、本会報に、「同窓会名簿作成カード」を同封いたしました。事務局として、つねに完全な名簿作成を心がけたいと思いますので、必要事項をご記入の上、ご一報下さいますようお願い致します。また通信欄も設けましたので、近況報告や、同窓生の方々の動静等もご

連絡下さい。

(2) 本会報は、今後、年2～4回の発行をめざしていきたいと考えております。本会報充実のため、投稿を歓迎しております。とくに、本号に掲載しました京都専門学校校歌については、これ以上詳しいことが、わかっておりません。ご存知の方のご一報をお待ちしています。

また、同窓生の皆様方のご活躍ぶりや周辺の出来事、なつかしい写真、母校に望む事など、広い範囲にわたる投稿をお待ち申し上げます。

(3) 母校の最近の動向についても、あらゆる角度から、本会報を通じて、ご紹介してまいりたいと思います。同窓生の皆様方の親睦交流をはかり、母校との深い絆を保っていくための同窓会報として、よりいっその充実をはかりたいと考えております。